

---

# 中近世瀬戸・美濃窯の紀年銘資料について

---

藤澤良祐

## はじめに

中世以来の施釉陶器生産地である瀬戸・美濃窯では、先学諸氏の調査・研究によってこれまで数多くの紀年銘資料の存在が確認されている。<sup>(1)</sup> 一般に陶磁器の紀年銘資料には、焼成前に生産者がへらなどで刻書したり、鉄や呉須の釉薬で書いたものと、焼成後の流通・消費の過程で主に使用者が墨書したものが存在するが、ここで取り上げる紀年銘資料は焼成前に施されたもので、製作者が紀年銘を記した本来の目的を検討するにあたって基礎的な整理を行うものである。

ところで中近世の瀬戸・美濃窯は、窯体構造の区分によって地下式単房の窖窯製品（古瀬戸）・地上式単房の大窯製品・地上式連房の登窯製品とに大別されており、まず生産地の時期区分に従って紀年銘資料全体の出現傾向について概観しておきたい。表8・9は、近世の狛犬を除き紀年銘や人名、胎土・製作技法上の特徴、出土・伝世地等から瀬戸窯と美濃窯とを分離し年代順に並べたもので、生産地の区別できないものについては、「瀬・美」とし表8に掲載した。なお、紀年銘当時の製品とは考えにくいものや実見していないものも含んでおり、特に疑わしいものについて欄外に＊印を付した。

## 1 窖窯製品（古瀬戸）

古瀬戸の生産された時期は、鎌倉時代初期から室町時代中頃（12世紀末～15世紀後葉）にかけての三百年ほどで、その間は前期・中期・後期の三時期に区分されている。古瀬戸の紀年銘資料は非常に少なく、確実にこの時期と考えられるものは僅かに3例4点にすぎない。いずれも古瀬戸中期様式前半の出土品で、当時の美濃では施釉陶器窯は確認されていないことから、すべてが瀬戸窯製品である。このうち一對の瓶子と狛犬は、神社に奉納されたか或は奉納されるはずのものであり、器種不明の陶板にしても、これが出土した萱刈窯の採集品の中に「南無阿弥陀仏」と型押しされた陶製板碑が存在することから宗教関係の器種とみてよいであろう。なお、一對の瓶子には奉納者名と奉納先が記されており、近世以降の御神酒徳利の紀年銘に相通じる要素が認められるが、奉納者が製作者と異なるところが明らかに相違する。

ところで、古瀬戸製品には様々な文様の施された瓶子・四耳壺・香炉・花瓶など、特注品と思われる宗教関係の器種が多いにも拘らず紀年銘資料は極めて少ない。これについては、古瀬戸製品がほとんど伝世していないこともその原因の一つと考えられるが、当時の製作者が自らの意志で紀年銘を施すことは極めて稀であったことを示している。

## 2 大窯製品

戦国期（15世紀末）になると、窯業生産の集約化が進展するとともに従来の窖窯の発展により新たに大窯と呼ばれる窯式が出現してくる。大窯製品とされる紀年銘資料はこれまでに15例が知られており、紀年銘資料が本格的に出現するのは大窯期からといえる。大窯期は天正初年頃を境に前後二段階に区分され、大窯前半期は瀬戸窯から美濃窯への陶工集団の移動期にあたり、胎土もよく似ているため両窯の製品分離は困難である。しかし後半期には瀬戸窯での生産は未確認で、すべて美濃窯製品と考<sup>(2)</sup>えている。

この段階の紀年銘資料には、伝世品である鉄釉四耳壺いわゆる祖母懷茶壺が9例と過半を占め、他には向付類が3例と花生・徳利・水指が各1例みられるにすぎない。茶壺には「祖母懷」銘や人名が存在するのが特徴である。「祖母懷」とは地名で、茶葉の保存に適した良質胎土を意味すると解釈されており、人名は古瀬戸製品にみられるように茶壺の奉納（献上）者と思われるが、「賀藤□景」や「藤四郎」名の存在から同時に竈大将クラスの製作者であった可能性が高い。さらに茶壺には月日が記されるものが7例存在するが、「三月吉」「三月下旬」「三月廿五日」「卯月十日」「卯月下旬」などとすべて旧暦の3月と4月であることから、これら茶壺は新茶の献上容器であったと考えられ、紀年銘はその献上年月日を示したものであろう。

一方、向付類には人名等が記されないのが特徴で、前述の古瀬戸の瓶子や大窯期の茶壺のように、特定の神社や個人に奉納あるいは献上されたものではないと思われる。戦国期の城館跡から底裏に「天文年造」と染付された中国製磁器の型打皿が出土し、それらは貿易商人による日本向け商品と解釈されているが<sup>(3)</sup>、それとほぼ同様の理由で美濃窯に注文されたものであろう。

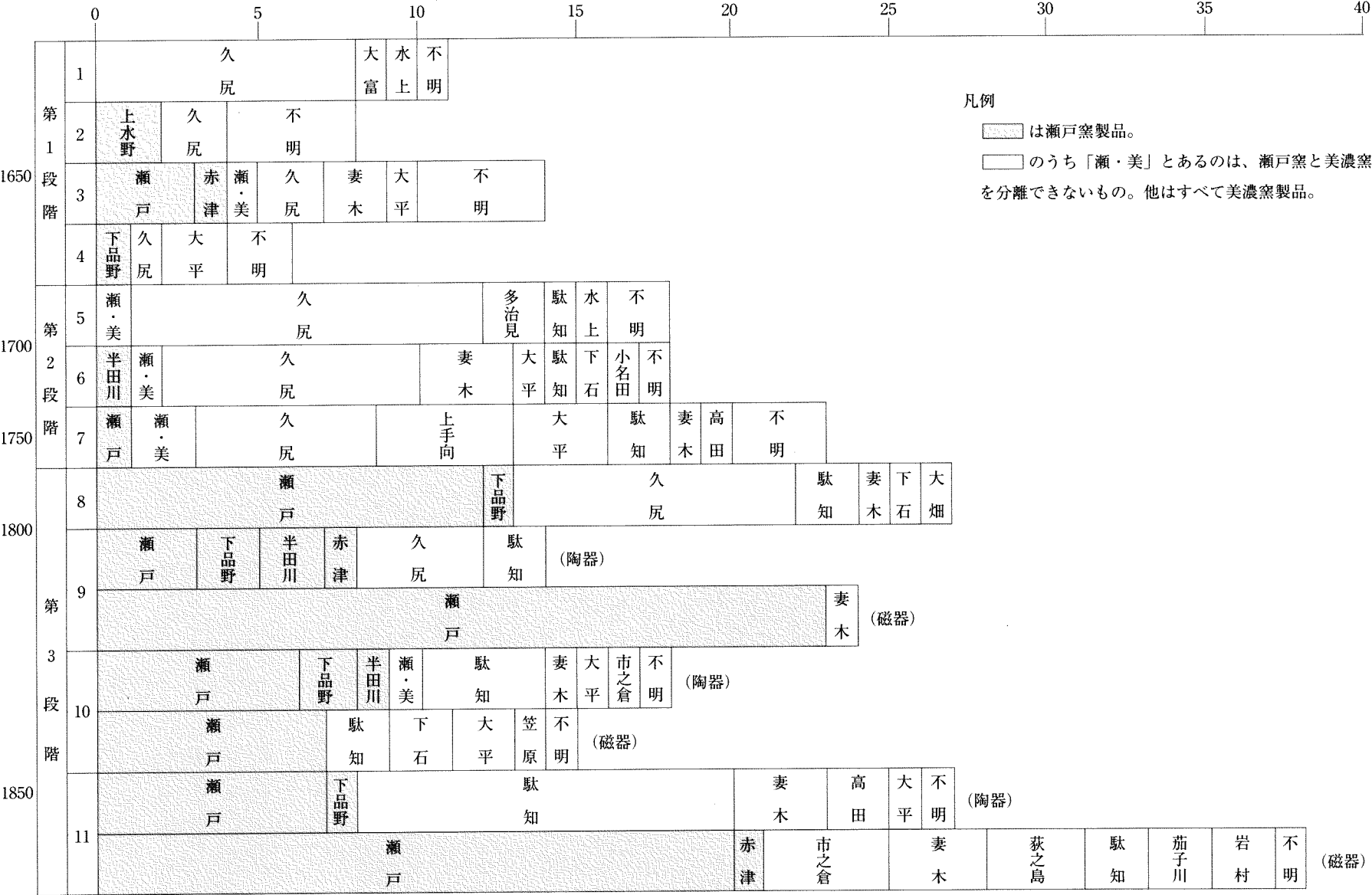
## 3 登窯製品

江戸時代（17世紀前葉）になると、瀬戸・美濃窯では肥前地方から新たに連房式登窯が導入される。また一方で生産地が固定され、瀬戸窯製品と美濃窯製品とはそれぞれ異なった型式変化を辿るようになり、村単位でも特色ある器種が生産されるなど、生産地の区別がある程度可能になる。登窯製品は第1段階（17世紀前葉～中葉）、第2段階（17世紀後葉～18世紀中葉）、第3段階（18世紀後葉～19世紀中葉）という三段階に大別され、さらに各段階を細分することにより11の小期が設定されている<sup>(4)</sup>。なお、表1は登窯期の紀年銘資料を時期別・村別に分けその推移を示したもので、表8・9で\*印を付したものは除外している。

### （1）瀬戸窯

瀬戸窯では、美濃窯との区別が不明なものを含めると100例余の紀年銘資料が存在するが、確実に第1段階とされる紀年銘資料は極めて少ない。特に第1小期（慶長後半～元和）のものは全くなく、第2小期（寛永）に僅か2例、第3小期（正保～万治）には瓦類を中心に4例とやや増加するものの、第4小期（寛文～天和）は1例確認されるにすぎない。第2段階についても同様に、確実に瀬戸窯製品とされるものは、第6小期（宝永～享保）に1例、第7小期（元文～宝暦）に1例が存在するにすぎない。また、当時生産の行われた瀬戸・赤津・下品野・上水野・下半田川村とも

表1 紀年銘資料の消長



[中近世瀬戸・美濃窯の紀年銘資料について]……藤澤良祐

僅かずつ存在しており、村別に目立った特徴は見いだせない。

ところが第3段階になると瀬戸窯製品の紀年銘資料は急増する。第8小期（明和～寛政）には13例が存在し、さらに磁器生産が導入される第9小期（文化～文政前半）には32例となりピークに達する。第10小期（文政後半～弘化）には17例と減少するが、第11小期（嘉永～慶応）には29例と再び増加する。このうち、磁器製品は第9小期に23例、第10小期には7例、第11小期には21例を占め、第10小期を除くと陶器製品を大きく上回っている。村別にみると陶器・磁器とも瀬戸村の製品が主体で、特に磁器製品はほとんどが瀬戸村産であるのが特徴である。

## （2）美濃窯

一方、美濃窯では約150例の紀年銘資料の存在が知られている。第1段階では、第1小期に11例と最も多く、第2小期に5例、第3小期に9例、第4小期に5例と、瀬戸窯製品と比べると各時期とも一定数確認されている。そして、第2段階になると第5小期（貞享～元禄）には17例、第6小期には16例、第7小期には20例と増加し、各村でみると天領となった久尻村を中心に妻木・駄知・大平・上手向など各村のものが認められる。第3段階には第8小期には14例、第9小期には7例と瀬戸窯とは逆に減少傾向に転じるが、第10小期には16例と増加し第11小期には36例と再び瀬戸窯製品を上回るようになる。なお、このうち磁器製品は第9小期には僅か1例であるが、第10小期には8例、第11小期には17例と急増する。瀬戸窯と比べると陶器製品の占める割合が高い傾向にあり、村別では第9小期までは第2段階と同様久尻村の割合が高いが、第10小期以降久尻村製品はみられない。それに対して幕末期には、駄知・妻木・茄子川・荻之島・岩村など私領の、特に新興窯業地での紀年銘資料が増加している。

さて、このような紀年銘資料の推移消長は、当時の瀬戸・美濃窯の生産状況にある程度反映しているように思われる。例えば第1・2段階では生産の主体は美濃窯にあり、紀年銘資料も美濃窯が瀬戸窯を圧倒している。また第3段階には、瀬戸村の窯数が増加するに伴い瀬戸窯の紀年銘資料も急増しており、さらに瀬戸・美濃窯とも磁器製品の生産動向ともある程度一致する（表2・3）。しかし、当時の美濃窯で天領最大の窯業地であった多治見村などは少ないのに対し、窯数の少ない久尻村で紀年銘資料が多いことなど、必ずしも生産状況を反映していない面も認められる。そこで、登窯期の紀年銘資料の用途と紀年銘の意味について整理しておく必要がある。

## 4 紀年銘資料の性格

登窯期の紀年銘資料は、主に窯跡から出土する窯業生産関係の道具類と、寺社などに永らく持ち伝えられた神仏具・茶道具・飲食具・文房具・住用具・灯火具などの伝世品とに大別されよう。表6・7は紀年銘資料を用途別に分類したものである。このうち、今回は生産地特有の道具類と、伝世品で最も確認例の多い神仏具、「年製」等の款識が施された磁器製品を取り上げ少し詳しくみていきたい。

### （1）生産道具について

生産道具の紀年銘資料は瀬戸窯で10例、美濃窯で24例が確認されている。エンゴロ・エブタ・

表2 近世瀬戸村竈数・竈屋数の変遷

年 代		竈数	竈屋数	典 拠
慶安年間(1648～52)		4	14	儀兵衛文書 5・6
寛文年間(1661～73)		12		寛文村々覚書
元禄 2 年(1689)		10		儀兵衛文書 7
元禄 6 年(1693)		12	20	春日井郡瀬戸村由来
宝永年間(1704～11)		12		塩尻
享保年間(1716～36)		15		儀兵衛文書 7
元文 2 年(1737)		16	58	儀兵衛文書 7
明和 7 年(1770)		20	112	儀兵衛文書 3
安永 9 年(1780)		24 (0)	142 (29)	儀兵衛文書 4
安永～天明年間		25		張州雑志
文化13年 (1816)	本業焼 染付焼 計		79 88 167	宝伝記『瀬戸焼近 世文書集』
文政 5 年 (1822)	本業焼 染付焼 計	14 17 31	66 91 157	瀬戸市史陶磁史篇 三・宝伝記『瀬戸 焼近世文書集』
文政 8 年(1825)		33		瀬戸市史陶磁史篇三
文政10年 (1827)	本業焼 染付焼 計	16 21 37		瀬戸市史陶磁史篇三
文政～ 天保年間	本業焼 染付焼 計		70 (6) 92 (0) 162 (6)	新右衛門文書32
安政 2 年 (1855)	本業焼 染付焼 計		70 (12) 92 (32) 162 (44)	新右衛門文書32
慶応 3 年 (1867)	本業焼 染付焼 計		64 98 162	竈株名寄帳
		45		

※( ) は中絶分内書き。元文2年に10人、明治7年に12人の轆轤沓挺之人含む。

栓・タナイタなどの窯道具(焼成道具)と、シッタ・トチオサエなどの成形道具、薬研・乳鉢・乳棒といった釉薬原料の粉碎道具とに分類でき、窯跡出土の使用痕のある擂鉢なども粉碎道具であった可能性が高い。これらの道具類は、他の紀年銘資料とは異なり特殊な形状・文様・釉薬を有するものではなく、道具としての一般的な形状を呈しているのが特徴である。

このうち、窯道具の使用は古瀬戸の段階に既に始まっており、大窯期には窯の物原に大量に廃棄されるにも拘らず、紀年銘が認められるのは慶長期以降であることは非常に興味深い。「慶長12年」銘のエンゴロについては大窯製品である可能性も残るが、確実に大窯の窯道具と認定できるものに紀年銘が施された例は全く認められないことから、登窯製品に使用されたとみてよいであろう。

表3 近世美濃窯電数の変遷

			寛政 8 年	文化14年	天保14年	嘉永 5 年	安政 6 年	明治 2 年
天	多治見村	本 郷	3	4 (1)	3	8	9	8
		大 畑 郷	2	1	1	1	1	1
		市之倉郷	4	6 (1)	7 (2)	8	8	7
	笠原村	本 郷	4	3	3	6	6	8
		滝 呂 郷	3	4	8 (3)	4	5	6
領	久尻村	本 郷	1	1				
		高 田 郷	5	6	6	7	6	4
	下 石 村		9	9	12 (3)	10	14	10
	そ の 他		1			4	2	8
	小 計		32	34 (2)	40 (8)	48	51	52
	私  領	駄 知 村		4	7 (3)		11	11
妻 木 村		3	1		10	12	17	
そ の 他		1			7	13	25	
小 計		8	8 (3)		28	36	54	
合 計			40	42 (5)		76	87	106

※( ) は新製窯の内数。嘉永5年には天領で6基、安政6年には天領で5基・

私領で2基の休窯が含まれる。

『多治見市史』窯業資料編 No. 53・69, 『土岐市史』(二), 『窯陶舎元祖』『瀬戸市近世文書集』第三集より作成

う。また、窯道具には紀年銘資料が極めて少ないばかりでなく、人名や窯印が記されることもほとんどないのが特徴<sup>(5)</sup>、紀年銘が第1・2小期に集中することから、各地区(村)における連房式登窯の導入時期と無関係ではないと思われる。

一方、成形道具や粉碎道具については、窯道具や他の製品の失敗品と比べると物原における出土量は極めて少ない。しかし、その割には紀年銘資料が多くみられ、紀年銘がなくても窯印や作者と思われる人名が記されることが多い。さらに、出土品ばかりではなく伝世品にも認められることから、これらの道具類の人名は個人(製作者本人)の所有物という意味で施されたもので、紀年銘はその製作日を記念したものであろう。

## (2) 神仏具について

紀年銘のある神仏具は、今回取り上げなかった狛犬を除いても美濃窯では55例と最も多く、瀬戸窯でも26例が確認されている。器種には香炉・御神酒徳利・花瓶・神仏像などがあり、このうち香炉類が過半を占める。神仏具は一般的な量産品とは異なり、特殊な形状を呈し様々な文様や釉薬が施されるのが特徴で、美濃窯では第2段階を主体に各時期とも一定量存在する。「奉納」等の文字や奉納先が記されるものがあり、伝世地からみても近隣の寺院・神社に奉納されたと考えられる。なお、神仏具としたもの以外では、灯籠や寺社で使用された住用具に類似する銘文を持つものが認められる<sup>(6)</sup>。

さて、奉納物には、紀年銘の他に奉納者の名前が入るものが多くみられるが、遅くとも第3小期以降のものは、奉納者イコール製作者である場合がほとんどで、製作者名には名字ばかりでなく、

「尉」という官位や花押まで記されることが、特に第2段階までの久尻村の製品に目立っている。そこで、久尻村の特殊な位置付けについて確認しておく必要がある。

寛政期における美濃窯の天領の村々では、多治見・笠原・久尻・土岐口村に大富竈（株）、下石村には定林寺竈（株）という二つの集団が存在し、その生産組織については、大富株を有する村では轆轤は個人所有で竈仲間制が一定の進展をみせているにも拘らず、竈一筋の内部は「竈主」—「竈筋」という結合形態（上下関係）を示しており、「竈主」イコール「本家」たる存在が仲間内で竈に対する優越権をまだ有していた段階とされている。このような大窯期の竈大將組織の残影というべき由緒的結合関係は、同時期の定林寺株には存在せず、既に第2段階に竈仲間組織に移行していたと思われる瀬戸窯でもみることとはできない<sup>(8)</sup>。久尻村の竈屋はこの由緒的結合の頂点に立つ「陶祖」の家系であり、高度な技術を駆使した神仏具の製作は、主に竈大將クラスの陶工によってその威厳の象徴として行われたと考えられ、美濃窯において、各村の生産量と紀年銘資料の数とが比例しないのはこうした理由によるものであろう<sup>(9)</sup>。

### （3）瀬戸村産磁器の款識について

磁器製品の紀年銘資料は、瀬戸窯で51例、美濃窯で26例と瀬戸窯が圧倒している（表4・5）。磁器製品にも神仏具をはじめ様々な器種が存在するが、陶器製品にほとんどみられない紀年銘として、「年製」等のいわゆる款識が記されたものがある。

磁器生産成立期にあたる第9小期の瀬戸窯では、「享和年製」「文化年製」等の款識が施された磁器製品が23例中18例におよんでいる<sup>(10)</sup>。飲食具とした碗類や鉢類と茶道具の水指が主体とし、やはり一般的な量産品にみられない特殊な形状や複雑な文様をもつものが多い。また、款識以外に詳しい生産年月日や人名は記されないのが特徴で、神仏具等にみられる紀年銘とも意味が全く異なっている。大窯期の向付類にもみられたように、茶碗や水指など不特定個人が用いるものには人名等が入らないのは当然とも言えるが、当時の瀬戸窯の磁器製品は清朝磁器をモデルとして製作されており<sup>(11)</sup>、底部外面という記銘位置からみても中国製磁器の款識に倣って施されたことは明らかである。なお、特に享和の款識には、尾張産であることを示す染付名や押印が認められるものが少なくない。当該期は尾張藩蔵元制度の創始期に当たっており、尾張藩が瀬戸産磁器の生産・流通に深く関与したことを示すとともに、尾張藩における磁器焼成の成功を誇示したものであろう。また、これら紀年銘資料には、俵形茶碗のように名古屋の瀬戸物御蔵元2名に贈られたという記録を残すもの

表4 磁器製品の紀年銘資料（瀬戸窯）

器種	生産	神仏具		文房具		飲食具		住用具		茶道具		合計
		成形道具	粉砕道具	香炉類	御神酒徳利	花瓶	硯	肉池・筆筒	碗類	皿類	向付・鉢類	
時期	9					1	1	1	6	2	5	
	10	2	1	2						1	1	7
	11		1		2	1		1	4	4	6	21
計		2	2	2	2	2	1	2	10	7	11	51

表5 磁器製品の紀年銘資料（美濃窯）

器種	生	神仏具		飲食具		住用具		茶		他	合計
		粉砕道具	香炉類	御神酒徳利	花瓶	碗類	皿類	蒸し器	壺	水盤	
時期	9					1					1
	10		2	4	1					1	8
	11	1	2	1		4	2	1	1	1	17
計		1	4	5	1	5	2	1	1	1	26

表6 紀年銘資料の用途（瀬戸窯）

器種 時期		生産道具			神 仏 具			文房具	灯火具		飲 食 具				住 用 具				茶道具		その他		合 計			
		窯道具	成形道具	粉碎道具	香炉類	御神酒德利	花瓶・小瓶	神仏像	硯	肉池・筆筒	灯明具	灯籠	碗類	皿類	向付・鉢類	德利類	重箱	甕類	水鉢	火入・火鉢	練鉢	水指		その他	瓦類	その他
第1段階	1																								0	
	2	1												1											2	
	3						1														1		3		5	
	4													1											1	
第2段階	5							1																	1	
	6						2																		2	
	7				1	1																	1		3	
第3段階	8	1		1	3		1				1			1				1		1		1	1	1	13	
	9		1		3		1		1	1	1	3	6	2	5						5	2		1	32	
	10		2	1	7		1	1				1	1		1	1								1	17	
	11	1	1	1		3	1		1	1		4	4	7			2		2					1	29	
小 計		3	4	3	14	4	4	4	3	2	1	4	11	7	15	1	1	2	1	2	1	6	3	5	4	105
合 計		10			26			5		5		35				6				9		9		105		

が存在することから、主<sup>(12)</sup>に藩からの贈答品として用いられたと考えられる。

さて、同種の紀年銘（款識）は第10小期には今のところ全くみられないが、第11小期になると「嘉永年製」「安政年製」「文久年製」などが出現する。しかし、これらには尾張産であることを示すものではなく、第9小期とはやや性格を異にしている。例えば「安政年製」「文久年製」の款識には、清朝磁器の模倣から脱却し底部内面に施され文様の一部を構成するものがあり、それらは形状や器面の文様が他の量産品とあまり変わらず、また消費遺跡からも出土することから、やや付加価値の高い程度の商品とみるのが許されよう。他方、款識に加え竈屋号や製作者名、さらに「日本」と記されたものが登場するのもこの時期からで、一種のブランド品や海外輸出用の製品としての性格が新たに付与されたものであろう。

## おわりに

以上のように、近世の紀年銘資料には様々な性格があることが明らかになった。その他に第3段階に登場する特筆すべき銘文には、製作者名の後に「用」「什」「所持」と付したものがあり、むしろこれらは製作者本人の所有物であろうが、生産関係の道具類とは異なり特殊な形状・釉薬・文様をもつものが少なくない。さらに「歳」「翁」という製作者自身の年齢を記したものが瀬戸窯・美濃窯ともに認められ、これらは竈大将としての権威の象徴というよりも、自作の製品の出来栄を誇りこれを記念するといった作家としての意識の表れとみるのが許されよう<sup>(13)</sup>。

いずれにせよ、紀年銘資料は窯跡や消費遺跡における大量の出土遺物からみれば生産量のごく一部であり、何らかの重要な意味があつて紀年銘が施されたことは明らかである。本稿では、それが如何なる意味を持つのかを解釈する上で、その代表的なものについて基礎的な検討を加えたにすぎ



表7 紀年銘資料の用途（美濃窯）

器種 時期	生産道具			神 仏 具				文 灯 火 具			飲 食 具				住 用 具				茶道具		その他			合 計		
	窯道具	成形道具	粉碎道具	香炉類	御神酒德利	花瓶	神仏像	その他	水滴	灯明具類	灯籠	碗類	皿類	鉢・盤類	德利類	壺・甕類	水甕	水注	鉢類	その他	茶壺	水指	置物・人形		基石入	不明
第1段階	1	4		2	1					1		1										1	1			11
	2			2					1	1											1					5
	3			1	2		1		1	1				1		1										9
	4				1		1			2						1										5
第2段階	5		1	3	8			1			1				1							1			1	17
	6			1	6			2	2						1	1			2		1					16
	7		1	1	4		1		1	1			1		1	3	1				3	1			1	20
第3段階	8				5		3							1		1	2	1	1							14
	9		1					1				1	1			2			1							7
	10			3	2	4	1			1	1	1						1	1	1						16
	11			4	4	2						4	2	2		6	1	2		5		1	2	1		36
小 計	4	3	17	34	6	7	3	5	5	5	1	7	4	4	3	15	4	4	5	6	5	4	3	1	2	157
合 計	24			55					5	6		18				34				9		6			157	

ない。本来こうした問題は紀年銘に限らず銘文資料全体のなかで検討する必要があるが、本稿の内容も決して充分なものとは言えないが、今後の研究の一助となれば幸いである。

#### 註

- (1)——小野賢一郎「をはりの花・風の巻」「同・月の巻」『陶器全集』1932、満岡忠成「記年銘ある日本古陶磁」『陶磁第9巻第4号』1937、安藤実『美濃古陶新集』1973、橋崎彰一「美濃紀年銘陶磁資料(1)」『瑞浪陶磁資料館研究紀要第1号』1982、美濃古窯研究会「紀年銘陶磁資料集成」『美濃古窯研究会会報No7』1994
- (2)——藤澤良祐『瀬戸市史陶磁史篇四』1993
- (3)——小野正敏『戦国城下の考古学』1997
- (4)——藤澤良祐『瀬戸市史陶磁史篇六』1998
- (5)——なお、第10・11小期の窯道具類には窯印が多く認められ、この時期に窯道具専門の生産者が登場した可能性がある。
- (6)——ただし神仏具には奉納物ばかりでなく、「久尻清安寺」という押印のある花瓶が伝世するように寺院等からの注文品が存在することも明らかで、それらには製

作者名が記されないのが特徴である。

- (7)——安藤勝昭「近世後期における窯業の展開」『岐阜史学第74号』1981

(8)——註(4)に同じ。

- (9)——その他、竜大將の権威を示すものに「天下一筑後窯」「天下一筑後守」の銘文が知られている。筑後守とは久尻の陶祖で、元屋敷窯を開いた加藤四郎右衛門景延の官途受領名である。

(10)——今回飲食具に分類した茶碗や向付には、茶道具である可能性が高いものが確実に含まれる。

- (11)——堀内秀樹・坂野貞子「江戸遺跡出土の18・19世紀の輸入陶磁」『東京考古第14号』1996

(12)——註(1)小野文献。

(13)——註(1)満岡論文。

(財)瀬戸市埋蔵文化財センター、国立歴史民俗博物館研究部プロジェクト研究調査協力者)

(2000年1月26日 審査終了受理)

表8 紀年銘資料一覧(瀬戸窯)

西暦	紀年	資料名	手法	生産地	用途	製作者名/主要銘文/(備考)	来歴	
1289	正応2.3	鉄釉肩衝茶入	不明	不明	茶陶	藤四郎家次/	伝世	*
1312	正和1.12	灰釉広口瓶子1対	刻書	古瀬戸	神仏	無/奉施入白山神社/	出土・神社	
1324	元亨4.8	鉄釉狛犬台座	刻書	古瀬戸	神仏	無/	出土・窯跡	*
1325	正中2.	獅子置物(文鎮)	不明	不明	文房	背戸二郎/	伝世	
1325	正中2.2	無釉陶板	型書	古瀬戸	神仏	無/	出土・窯跡	
1512	永正9.4	鉄釉四耳壺(茶壺)	刻書	瀬・美	茶陶	賀藤□景/祖母カフトコロ/	伝世	
1516	永正13.3	鉄釉四耳壺(茶壺)	刻書	瀬・美	茶陶	助九郎/	伝世	
1521	永正18.5	鉄釉水指	刻書	瀬・美	茶陶	無/てんもくや又四郎/	伝世	
1531	享禄4.4	鉄釉四耳壺(茶壺)	刻書	瀬・美	茶陶	無/祖母懷/	伝世	
1541	天文10.3	鉄釉四耳壺(茶壺)	刻書	瀬・美	茶陶	無/祖母懷上々/	伝世	
1635	寛永12.5	長石釉鉄絵鉢	鉄絵	上水野	飲食	無/	出土・窯跡	
1638	寛永15	エブタ	鉄絵	上水野	生産	不明/	出土・窯跡	
1650	慶安3.1	長石釉鉄絵敷瓦	鉄絵	瀬戸	他	又吉/奉寄進/	伝世	
1650	慶安3.2	緑釉築地塀瓦	刻書	瀬戸	他	加藤源十郎景古/奉寄進御宝前/	伝世	
1650	慶安3.2	黄瀬戸瓦	不明	瀬戸	他	加藤猪之助/奉寄進/	出土・寺	
1651	慶安4.7	鉄釉十一面観音像	刻書	赤津	神仏	加右衛門/	伝世	
1659	万治2.3	鉄釉水指	不明	瀬・美	茶陶	不明/	伝世	
1666	寛文6.3	鉄釉櫛目文手鉢	刻書	下品野	飲食	加藤新右衛門/	伝世	
1687	貞享4.8	鉄釉長方硯	刻書	瀬・美	文房	無/長久伝/	伝世	
1711	正徳1.4	鉄釉人物像	刻書	半田川	神仏	善九郎/五十年紀/	伝世	
1714	正徳4.9	灰釉地藏菩薩像	刻書	瀬・美	神仏	無/地藏菩薩/	伝世	
1745	延享2~	鉄釉胴板瓦3	刻書	瀬・美	他	焼師市左衛門/	出土・遺跡	
1745	延享2.10	御神酒德利	不明	瀬・美	神仏	無/熱田皇大神宮	伝世	
1757	宝暦7	灰釉角形香炉	染付	瀬戸	神仏	水野武兵衛/奉上加納村薬師庵/	伝世	
1765	明和2.5	無釉乳鉢	刻書	瀬戸	生産	加藤平四郎・平次/洞嶋/	伝世	
1766	明和3.8	灰釉磐若の面	刻書	下品野	他	加藤三右衛門/	伝世	
1767	明和4	御深井蓋置	刻書	瀬戸	茶陶	無/明和丁亥製/	伝世	
1767	明和4	黄瀬戸香炉	不明	瀬戸	神仏	無/明和丁亥造/	伝世	
1779	安永8.3	灰釉台付小瓶	刻書	瀬戸	神仏	孫十/	出土・遺跡	
1783	天明3.10	錆釉灯籠	鉄絵	瀬戸か	灯火	無/秋葉山/	伝世	
1785	天明5.8	青釉大水鉢	不明	瀬戸	住用	春宇(加藤武右衛門)/	伝世	
1789	寛政	織部四方鉢	鉄絵	瀬戸	飲食	春宇印/寛政年制/	伝世	
1794	寛政6.11	灰釉角形香炉	染付	瀬戸	神仏	無/養山/	出土・窯跡	
1795	寛政7.5	灰釉練鉢	刻書	瀬戸	住用	加藤半□/	出土・窯跡	
1796	寛政8.11	鉄釉敷瓦	刻書	瀬戸	他	加藤哥石・春厚印(市左衛門)/	伝世・寺	
1799	寛政1□.	ヘダテエングロ	鉄絵	瀬戸	生産	不明/	出土・窯跡	
1799	寛政11.8	上絵付角形香炉	色絵	瀬戸	神仏	水野平吉/洞嶋・作者/	伝世	
1801	享和	磁器俵形茶碗	不明	瀬戸	飲食	無/享和年製・尾張/(御蔵元へ贈呈)	伝世	
1801	享和	磁器茶碗	染付	瀬戸	飲食	無/享和尾張製/	伝世	
1801	享和	磁器松図茶碗	染付	瀬戸	飲食	無/享和年製・尾張印/	伝世	
1801	享和	磁器水指	染付	瀬戸	茶陶	無/享和年尾張製/	伝世	
1801	享和	磁器山水文水指	染付	瀬戸	茶陶	無/享和年尾張/	伝世	
1801	享和	磁器山水文振出	染付	瀬戸	茶陶	無/享和年製・尾張印/	伝世	
1801	享和	磁器茶碗	染付	瀬戸	飲食	無/享和年製・尾張印/	伝世	
1803	享和3	磁器山水文蓋付向付	染付	瀬戸	飲食	無/享和癸亥尾張製/	伝世	
1804	文化	磁器芋頭水指	染付	瀬戸	茶陶	無/文化年製/	伝世	

西暦	紀 年 月	資 料 名	手法	生産地	用途	製作者名／主要銘文／(備考)	来 歴
1804	文化	磁器人物図六角水指	染付	瀬戸	茶陶	無／文化尾製／	伝世
1804	文化	磁器祥瑞文瓢形水指	染付	瀬戸	茶陶	無／文化年製／	伝世
1804	文化	磁器草花文雪輪形鉢	染付	瀬戸	飲食	無／文化尾製／	伝世
1804	文化	磁器鳳凰文小壺	染付	瀬戸	茶陶	無／文化年製／	伝世
1804	文化	磁器人物図桐葉形皿	染付	瀬戸	飲食	無／文化尾製／	伝世
1804	文化	磁器湯呑	染付	瀬戸	飲食	無／文化年製／	伝世
1804	文化	磁器蓋物	染付	瀬戸	飲食	無／文化歳製／	伝世
1804	文化	磁器重葉形手鉢	染付	瀬戸	飲食	無／文化年製／	伝世
1804	文化 1	灰釉角形香炉	刻書	下品野	神仏	加藤新右衛門／大吉／	伝世・寺
1804	文化 1.5	長石釉陶板	鉄絵	瀬戸か	他	無／	伝世
1805	文化 2	鉄釉灯明具	鉄絵	赤津か	灯火	無／	伝世
1805	文化 2.4	灰釉角形香炉	刻書	下品野	神仏	山古（源兵衛か）／	伝世・寺
1807	文化 4.9	織部灯籠	刻書	瀬戸	灯火	加藤武右衛門春字／奉献常夜燈／	伝世・神社
1811	文化 8.2	シッタ	刻書	瀬戸	生産	不明／	出土・窯跡
1812	文化 9.6	染付德利	染付	大高か	飲食	無／	伝世
1814	文化 11	磁器雲竜文鉢	染付	瀬戸	飲食	無／	伝世
1816	文化 13.12	染付角形香炉	染付	瀬戸	神仏	源右衛門／愛知郡菱野村／	伝世
1817	文化 14.9	無釉灯籠	刻書	半田川	灯火	加藤宇兵衛／山の神様／	伝世
1818	文政 1	磁器祥瑞文大皿	染付	瀬戸	飲食	無／文政戊寅年製／	伝世
1820	文政 3	青磁長方硯 3	染付	瀬戸	文房	頼溪（吉右衛門）／応鈴公需製／	伝世
1821	文政 4	青磁肉池（印肉入）	染付	瀬戸	文房	豪潮珍玩・寛海花押／	伝世
1821	文政 4. 夏	磁器象耳花瓶	染付	瀬戸	神仏	豪潮／時年七十有三／	伝世
1824	文政 7.3	無釉灯籠	鉄絵	半田川	灯火	加藤嘉六／上田内山の神／	伝世
1824	文政 7.11	磁器広東茶碗	染付	瀬戸	飲食	無／	出土・窯跡
1826	文政 9. 秋	長石釉角形香炉	鉄絵	瀬戸	神仏	加藤清三郎／御焼物師／	伝世・寺
1831	天保 2	染付広東茶碗	染付	半田川	飲食	不明／	出土・遺跡
1832	天保 3.6	磁器トチオサエ	染付	瀬戸	生産	無／中井嶋／	出土・窯跡
1832	天保 3.6	磁器シッタ	染付	瀬戸	生産	幸右□□／仲井嶋／	出土・窯跡
1833	天保 4	絵高麗角形香炉	鉄絵	下品野	神仏	加藤定蔵／下竈／	伝世・寺
1834	天保 5	鉄釉分銅	鉄絵	瀬戸	他	十一屋／北しま／	出土・窯跡
1835	天保 6	灰釉通帳形德利	染付	瀬・美	飲食	無／酒之通・後藤吞助／	伝世
1835	天保 6	磁器桐鳳凰文香炉	染付	瀬戸	神仏	加藤民吉／十一世一山代／	伝世・寺
1835	天保 6.4	鉄絵角形香炉	刻書	下品野	神仏	源蔵／	伝世
1835	天保 6.10	長石釉角形香炉	鉄絵	瀬戸	神仏	早梅亭（善治）／福厳禅寺什宝／	伝世・寺
1836	天保 7	長石釉象形香炉	刻書	瀬戸	神仏	早梅亭善右衛門（善治）／	伝世
1836	天保 7. 秋	磁器乳鉢	染付	瀬戸か	生産	傳吉／繪具鉢／	伝世
1838	天保 9.5	磁器香炉 1 対	染付	瀬戸村	神仏	加藤吉右衛門晴生花押／奉納秋葉山／	伝世・寺
1843	天保 14	長石釉花筒	鉄絵	瀬戸	神仏	早梅亭／為先祖菩提／	伝世・寺
1843	天保 14～	十六羅漢塑像 16 本	刻書	瀬戸	神仏	笑叟陶仙上□（善治）／	伝世・寺
1843	天保 14. 冬	磁器四君子図二段重	染付	瀬戸	飲食	亀井半二／応襟江舎主人需／	伝世
1844	天保 15	磁器笹文小皿 3 枚	染付	瀬戸	飲食	無／	伝世
1848	嘉永	磁器皿 5 枚	染付	瀬戸	飲食	半二／嘉永年製・福寿安寧／	伝世
1848	嘉永	磁器銅版唐草文鉢	印判	瀬戸	飲食	無／嘉永年製／	伝世
1848	嘉永	磁器小鉢 5 客	染付	瀬戸	飲食	無／日本嘉永年製／	伝世
1848	嘉永 2. 冬	染付亀甲稲穂文鉢	染付	瀬戸	飲食	無／	伝世
1853	嘉永 6	青磁鉢 3 枚	染付	瀬戸	飲食	還情園池紋（紋右衛門）／嘉永六丑年製	伝世

\*

西暦	紀 年 月	資 料 名	手法	生産地	用途	製作者名／主要銘文／(備考)	来 歴
1854	嘉永 7. 春	焼締猿面硯 2	刻書	瀬 戸	文房	加藤吉右衛門／	伝世
1854	安政	磁器牛図中皿 6 枚	染付	瀬 戸	飲食	無／日本安政年製／	伝世
1854	安政	青磁火入	染付	瀬戸か	住用	無／安政年政／	伝世
1854	安政	磁器端反碗	染付	瀬 戸	飲食	無／安政年政／	出土・遺跡
1854	安政	磁器端反碗	染付	瀬 戸	飲食	無／安政年政／	出土・窯跡
1860	万延 1	磁器御神酒德利	染付	瀬 戸	神仏	加藤源吉／北／	伝世
1860	万延 1. 8	透明釉甕	鉄絵	瀬 戸	住用	加藤磯重／奉納深川神社／	伝世・神社
1860	万延 1. 11	シッタ	鉄絵	瀬 戸	生産	加藤庄七／高嶋茂十・水野丈助扣／	伝世
1861	万延 2. 1	磁器御神酒德利	染付	瀬 戸	神仏	加藤庄右衛門／御神前／	伝世
1861	文久	磁器唐草文水屋甕	染付	瀬 戸	住用	真陶園半介 (川本半助)／文久年製／	伝世・寺
1861	文久	磁器端反碗	染付	瀬 戸	飲食	無／文久年製／	出土・遺跡
1861	文久	磁器端反碗	染付	瀬 戸	飲食	無／文久年製／	伝世
1863	文久 3. 1	磁器七草図花瓶 1 対	染付	瀬 戸	神仏	加藤吉右衛門／	伝世
1864	元治 1	磁器蒔絵深鉢	不明	瀬 戸	飲食	半山 (川本半助)／	伝世
1864	元治 1	磁器蒔絵深鉢	染付	瀬 戸	飲食	半山／元治半山製／	伝世
1864	元治 1	磁器蒔絵菓子鉢	染付	瀬 戸	飲食	山半 (川本半助)／元治山半製／	伝世
1864	元治 1. 5	磁器乳鉢	染付	瀬戸か	生産	永楽軒／	伝世
1864	元治 1. 夏	染付御神酒德利	染付	瀬 戸	神仏	加藤勝平／奉納御神前／	伝世
1864	元治 1. 10	タナイタ	刻書	品 野	生産	亀三郎／	出土・窯跡
1865	慶応	磁器草花文小皿	染付	瀬 戸	飲食	無／日本慶応年製／	伝世
1865	慶応 1. 11	磁器筆筒	染付	瀬 戸	文房	陶玉園呉介 (五助)／	伝世
1865	慶応 1. 12	鉄釉手焙り	刻書	瀬 戸	住用	早梅亭／七十八翁／	伝世
1866	慶応 2. 2	六角陶碑	刻書	瀬 戸	他	無／陶祖碑文／	伝世・公園
1868	慶応 4. 5	磁器山水文中皿	染付	上赤津	飲食	仁平／	伝世

※生産地欄に「瀬戸」とあるのは、瀬戸窯でも瀬戸村産の製品。

表9 紀年銘資料一覧（美濃窯）

西暦	紀年	資料名	手法	生産地	用途	製作者名／主要銘文／（備考）	来歴	
1521	大永	長石釉鉄絵大皿	鉄絵	久尻	飲食	無／（17世紀前葉製作）	出土・遺跡	*
1521	大永1.8	志野円形硯	刻書	美濃？	文房	不明／	伝世	*
1558	永禄1	鉄釉花生	刻書	美濃？	茶陶	不明／	出土・窯か	
1574	天正2.7	鉄釉耳付徳利	不明	美濃か	飲食	藤四良／	伝世	*
1580	天正8.3	鉄釉四耳壺（茶壺）	刻書	美濃か	茶陶	無／祖母懷／	伝世	
1580	天正8.3	茶壺	刻書	美濃か	茶陶	不明／祖母懷上／	伝世	
1592	文禄.3	鉄釉茶壺	刻書	久尻か	茶陶	不明／文禄年製・上祖母懷／	伝世	
1593	文禄2.8	黄瀬戸向付	刻書	大萱	飲食	無／	出土・窯跡	
1594	文禄3	鉄釉四耳壺（茶壺）	不明	美濃か	茶陶	不明／	伝世	
1596	慶長	乳棒	刻書	久尻	生産	不明／	出土・窯跡	
1596	慶長1	鉄釉四耳壺（茶壺）	刻書	美濃か	茶陶	藤四郎／	伝世	
1603	慶長8.2	黄瀬戸向付	刻書	美濃	飲食	無／	出土・遺跡	
1605	慶長10.6	志野扇面形向付	鉄絵	久尻か	飲食	不明／	伝世	
1607	慶長12.	エンゴロ	鉄絵	久尻	生産	不明／	出土・窯跡	
1612	慶長17	美濃伊賀水指	刻書	久尻	茶陶	不明／	出土・遺跡	
1612	慶長17.9	織部獅子鈕香炉	刻書	久尻か	神仏	「加藤佐右衛門」／寄進熱田大神宮／	伝世	
1614	慶長19	エンゴロ	鉄絵	久尻か	生産	不明／	出土・窯跡	
1615	元和	栓	刻書	水上	生産	無／	出土・窯跡	
1615	元和	エブタ	刻書	久尻	生産	不明／	出土・窯跡	
1617	元和3.11	乳棒	刻書	久尻	生産	吉十花押／	出土・窯跡	
1619	元和5.5	鉄釉猿置物	鉄絵	美濃	他	加藤長三郎／	伝世	
1622	元和8.2	志野織部台付碗	鉄絵	久尻	飲食	無／	出土・窯跡	
1622	元和8.5	青織部燭台	鉄絵	大富	灯火	無／	出土・窯跡	
1624	寛永	灰釉乳棒	刻書	美濃	生産	不明／	出土	
1626	寛永3	黄瀬戸布袋形水滴	刻書	美濃	文房	景次／	伝世	
1629	寛永6.2	鉄釉四耳壺	刻書	久尻か	茶陶	景延花押／天下一筑後窯／	伝世	
1634	寛永10.	乳棒	刻書	久尻	生産	不明／	出土・窯跡	
1642	寛永19.12	鉄釉灯明皿	刻書	美濃	灯火	加藤叙左衛門／	出土	
1645	正保2.5	鉄釉三猿角形香炉	刻書	妻木か	神仏	加藤太郎左衛門景重花押／天下一筑後窯／	伝世・寺	
1645	正保2.6	練り込み文壺	刻書	駄知	住用	塚本閑庭斎／（19世紀中葉製作）	伝世	*
1646	正保3.5	灰釉八角経筒	刻書	美濃	神仏	加藤伊兵衛尉／奉寄進妻木村八幡大菩薩／	伝世	
1646	正保3.7	鉄釉大花瓶	刻書	美濃	神仏	加藤四郎右衛門尉／大永寺天狗稲荷／	伝世	
1647	正保4.10	鉄釉灯明台	刻書	美濃	灯火	無／寄進土岐口村浅間／	出土	
1648	正保5.6	鉄釉香炉	刻書	妻木か	神仏	加藤太郎左衛門景重／寄進崇禅寺地藏堂／	伝世・寺	
1652	慶安5.6	無釉乳鉢	刻書	久尻	生産	加藤九〇／	出土・窯跡	
1653	承応2.3	黄瀬戸鉢	刻書	美濃	飲食	〇り十兵衛／	伝世	
1657	明暦3.5	灰釉角形水滴	刻書	大平	文房	加藤三十郎／	出土・窯跡	
1660	万治3.7	鉄釉甕	鉄絵	久尻	住用	無／	伝世	
1663	寛文3.6	青織部角形水滴	刻書	大平	文房	不明／	出土	
1665	寛文5.5	灰釉角形水滴	刻書	大平	文房	加藤小兵衛か／	伝世	
1666	寛文6.8	鉄釉双耳花瓶	刻書	久尻か	神仏	無／久尻清安寺印	伝世	
1669	寛文9	灰釉双耳甕	刻書	美濃	住用	無／	伝世	
1669	寛文9.4	灰釉香炉	刻書	美濃	神仏	不明／南無阿弥陀仏	伝世	
1685	貞享2.5	灰釉香炉	刻書	久尻	神仏	景定／	伝世・寺か	*
1685	貞享2.5	灰釉貼付文香炉	刻書	久尻	神仏	景定／	伝世	
1686	貞享3.3	陶製観音像	刻書	久尻か	神仏	加藤角左右衛門尉花押／為涼光清信女／	伝世・寺	

西暦	紀年	資料名	手法	生産地	用途	製作者名／主要銘文／(備考)	来歴
1686	貞享3.5	灰釉貼付文香炉	刻書	久尻	神仏	景政／車町伝右衛門／	伝世
1687	貞享4.11	薬研	刻書	久尻	生産	不明／	出土
1688	貞享5.2	シッタ	刻書	水上	生産	無／	出土・窯跡
1688	貞享5.3	飴釉乳鉢	刻書	久尻	生産	岡田重勝花押／	出土・窯跡
1689	?	灰釉水指	刻書	久尻	茶陶	林五郎／	伝世
1689	元禄2.2	灰釉貼付文香炉	刻書	多治見	神仏	加藤惣介／	伝世
1690	元禄3.9	鉄釉一重口大水指	鉄絵	久尻	茶陶	五郎／	伝世
1692	元禄5.4	灰釉貼付文香炉	刻書	久尻	神仏	加藤三郎右衛門／奉寄進妻木村瑞祥院／	伝世・寺
1693	元禄6	飴釉鉢	刻書	久尻	生産	不明／	出土・窯跡
1693	元禄6.9	灰釉貼付文香炉	刻書	久尻か	神仏	無／下野文左右衛門奉寄進	伝世
1694	元禄7	鉄釉陶片	刻書	久尻	不明	不明／	出土・窯跡
1694	元禄7.5	灰釉鉄絵灯明具	刻書	美濃	灯火	無／	出土
1695	元禄8.3	灰釉角形香炉	刻書	美濃	神仏	景国／	伝世
1697	元禄10.1	灰釉貼付文香炉	刻書	久尻か	神仏	無／	伝世
1697	元禄10.5	灰釉貼付文角形香炉	刻書	駄知	神仏	水野四郎兵衛／籠橋氏信重奉寄進	伝世
1704	元禄17	鉄釉徳利	刻書	美濃か	飲食	不明／	伝世
1704	元禄17.3	鉄釉三耳徳利	刻書	多治見	茶?	「彦右衛門」／御茶坪?／	伝世
1706	宝永3	灰釉徳利か	刻書	久尻	飲食	文左衛門／	出土・窯跡
1706	宝永3.4	陶製勢至菩薩像	刻書	久尻か	神仏	加藤次左衛門尉景定・清右衛門尉景盛／	伝世・寺
1706	宝永3.7	鉄釉四耳壺	刻書	久尻か	茶陶	岡田利右衛門重福／奉寄進清安寺／	伝世・寺
1707	宝永4.3	灰釉貼付文香炉	染付	久尻	神仏	加藤筑後守朝臣岡田周福／為菩提奉寄進	伝世・寺
1714	正徳4.6	灰釉摺絵角形香炉	刻書	下石か	神仏	盛員／	伝世・寺
1716	正徳6.4	灰釉貼付文香炉	刻書	久尻か	神仏	景定／	伝世
1718	享保3.6	鉄釉練鉢	刻書	大平	住用	加藤忠右衛門藤原景綱／竹や市左衛門鉢	伝世
1718	享保3.9	灰釉角形香炉	刻書	妻木	神仏	岡田重景／	伝世・寺
1724	享保9.3	灰釉厨子	刻書	小名田	神仏	加藤花押／	伝世
1725	享保10.9	織部霊位	刻書	久尻	神仏	不明／	出土・窯跡
1726	享保11	灰釉貼付文香炉	刻書	久尻	神仏	岡田氏／	伝世
1726	享保11	灰釉香炉	刻書	美濃	神仏	景則／	伝世
1726	享保11	灰釉蓋物(蓋)	刻書	妻木	住用	勘一／	出土
1728	享保13.8	壺	刻書	駄知	住用	塚本六右衛門／	伝世
1731	享保16.2	陶製神像	刻書	妻木	神仏	山本氏／奉供養山神社／	伝世
1732	享保17.4	灰釉薬研(舟)	刻書	久尻	生産	岡田藤次郎／	伝世
1737	元文2.10	鉄釉花瓶	刻書	久尻	神仏	景時花押／	出土
1738	元文3.4	灰釉菊形水滴	刻書	久尻	文房	孫四郎／	出土・窯跡
1738	元文3.9	鉄釉四耳壺2	刻書	駄知	茶陶	塚本六右衛門／自作／	伝世
1740	元文5	鉄釉掛け分け壺	刻書	高田か	住用	高田さん藤斎／	伝世
1745	延享2.2	鉄釉壺(蓋)	刻書	美濃	住用	無／	出土
1746	延享3	飴釉双耳壺	刻書	久尻	住用	松右衛門花押／	伝世
1748	延享5.7	鉄釉脚部破片	刻書	大平	不明	加藤和七郎／	出土
1749	寛延2	灰釉貼付文角形香炉	刻書	上手向	神仏	常政花押／	伝世
1749	寛延2	鉄釉茶壺	刻書	久尻	茶陶	吉田弥左衛門／	出土
1749	寛延2	灰釉摺絵型打皿	染付	久尻	飲食	加藤弥左衛門景森／	伝世
1749	寛延2	香炉破片	刻書	上手向	神仏	不明／	出土・窯跡
1749	寛延2.3	鉄釉神祠	刻書	妻木	神仏	山本氏花押／	伝世
1752	宝暦2	鉄釉三耳壺	刻書	上手向	茶陶	常政花押／	伝世

西暦	紀 年 月	資 料 名	手法	生産地	用途	製作者名／主要銘文／(備考)	来 歴
1753	宝暦 3	染付梅文香炉	染付	美濃か	神仏	不明／	伝世
1754	宝暦 4	シッタ	刻書	美 濃	生産	無／	出土
1754	宝暦 4.7	灰釉貼付文角形香炉	刻書	上手向	神仏	常政／釜屋付清寿院／	伝世
1759	宝暦 9.7	鉄釉瓢形德利	刻書	久 尻	飲食	無／	伝世
1760	宝暦 10.6	灰釉水甕	刻書	大平か	住用	加藤和七／	出土・窯跡
1763	宝暦 13	黄瀬戸釉水指	刻書	大 平	茶陶	加柳／	伝世
1763	宝暦 13	鉄釉搗鉢	刻書	駄 知	生産	不明／	出土・窯跡
1764	明和 1	香炉	刻書	妻木か	神仏	不明／	伝世
1765	明和 2	鉄釉双耳花瓶	刻書	久尻か	神仏	無／久尻清安寺印／	伝世
1765	明和 2	鉄釉竹虎文水甕	刻書	久尻か	住用	加藤弥左衛門景光／天下一筑後守／	伝世
1769	明和 6.8	上絵付角形香炉	上絵	大 畑	神仏	加藤氏／	伝世
1777	安永 6	鉄釉双耳花瓶	刻書	久尻か	神仏	無／久尻清安寺印	伝世
1777	安永 6	灰釉植木鉢か	刻書	下 石	住用	不明／	出土・窯跡
1781	天明	白磁煎茶器	染付	美濃？	飲食	不明／天明年製か	伝世
1784	天明 4	蓮華香炉	刻書	久尻か	神仏	不明／	伝世・寺
1787	天明 7.1	鉄釉双耳花瓶	刻書	久尻か	神仏	無／奉納／	伝世
1787	天明 7.7	鉄釉蓮華香炉	刻書	久 尻	神仏	東理藤治常張／	伝世・寺
1789	寛政 1	壺	刻書	久尻か	住用	不明／	伝世
1789	寛政 1.8	鉛釉貼付文香炉	刻書	久 尻	神仏	東藤原常張／	伝世・寺
1793	寛政 5.4	鉄釉手付水注	刻書	駄 知	住用	塚本伝六／	出土
1796	寛政 8	緑釉貼付文水甕	刻書	駄 知	住用	塚本源重郎／	伝世
1799	寛政 11	灰釉鉄釉掛分け大鉢	刻書	久 尻	飲食	岡田利藤治重純／六十四才／	伝世
1803	享保 3.4	灰釉漬物鉢蓋	刻書	駄 知	住用	塚本喜七／付物鉢／	伝世
1805	文化 2	鉄釉壺か	刻書	久 尻	住用	岡田入助重純／七拾才之年／	出土・窯跡
1805	文化 2	磁器湯呑	染付	妻木？	飲食	不明／	伝世？
1805	文化 2.4	染付大皿	染付	久 尻	飲食	岡田入助重純／清安寺什物・七拾才之年	伝世
1809	文化 6.5	鉄釉祠 1 対	刻書	駄 知	神仏	塚本傳六／	伝世
1809	文化 6.8	シッタか	鉄絵	久 尻	生産	利藤二重倚／	出土
1813	文化 10.3	壺か甕	刻書	久 尻	住用	岡田利藤治／	出土・窯跡
1825	文政 8.9	磁器瓶子 1 対	染付	大平か	神仏	無／奉献神明宮／	伝世・寺
1827	文政 10	灰釉灯明具	刻書	美 濃	灯火	無／	伝世
1827	文政 10.5	灯籠	刻書	妻木か	灯火	不明／	伝世・寺
1830	文政 13.12	磁器角形香炉	染付	駄 知	神仏	塚本氏／奉納／	伝世・寺
1831	天保 2.4	灰釉練鉢	刻書	駄 知	住用	無／	伝世
1835	天保 6	搗鉢	刻書	大 平	生産	無／	出土・窯跡
1836	天保 7.12	磁器御神酒德利 1 対	染付	笠原か	神仏	「加藤作兵衛」／奉献神明宮／	伝世・神社
1838	天保 9	染付広東茶碗	染付	市之倉	飲食	無／	出土・窯跡
1840	天保 11.5	灰釉薬研 (車)	刻書	駄 知	生産	無／西窯／	伝世
1841	天保 12.春	鉄釉手付水注	刻書	駄 知	住用	無／	伝世
1843	天保 14.4	磁器雲鶴文角形香炉	染付	美 濃	神仏	松翠軒／濃州朝日製／	伝世
1844	天保 15.秋	磁器御神酒德利 1 対	染付	大平か	神仏	「土屋亀松」／奉献山王宮／	伝世・神社
1846	弘化 3	磁器山水文花生	染付	美 濃	神仏	加藤定七／岡谷三平筆	伝世
1846	弘化 3.11	磁器瑠璃釉瓶子 1 対	染付	下 石	神仏	加藤利兵衛／	伝世
1847	弘化 4.7	無釉乳棒	刻書	駄 知	生産	不明／	出土
1847	弘化 4.11	磁器井戸車	刻書	下 石	住用	加藤数兵衛か／	伝世
1848	嘉永	磁器蒸し器 (蓋)	染付	荻之島	飲食	無／嘉永年製／	伝世

\*

西暦	紀年 月	資料名	手法	生産地	用途	製作者名／主要銘文／(備考)	来歴
1848	嘉永	磁器皿	染付	妻木	飲食	不明／嘉永年製／	出土・窯跡
1850	嘉永3.3	灰釉双耳水甕	刻書	大平	住用	扇屋喜兵衛／	伝世
1850	嘉永3.5	鉄釉薬研	刻書	駄知	生産	塚本産□／	伝世
1851	嘉永4	角形香炉	刻書	妻木?	神仏	善六／	伝世
1851	嘉永4	丸形香炉	刻書	妻木?	神仏	善六／	伝世
1851	嘉永4.6	白磁丸形香炉	染付	妻木?	神仏	「水野幸七」／	伝世
1854	嘉永7.夏	磁器御神酒徳利1対	染付	萩之島	神仏	足立岩次／寄附熊野大権現／	伝世
1854	嘉永7.5	磁器香炉	染付	美濃	神仏	不明／	伝世
1854	安政	磁器湯呑	染付	岩村	飲食	不明／安政岩邑産新製／	出土・窯跡
1855	安政2	磁器大皿	不明	茄子川	飲食	篠原利兵衛／	伝世
1855	安政2.6	西行法師人形	鉄絵	駄知	他	無／	伝世
1856	安政3.4	錆釉手付水注	刻書	駄知	住用	塚本傳六／	伝世
1856	安政3.9	磁器乳鉢	刻書	駄知	生産	無／	伝世
1857	安政4.4	鉄釉双耳甕	刻書	駄知	住用	傳六／	伝世
1857	安政4.8	鉄釉大徳利	刻書	駄知か	神仏	加藤□□／呈高田村／	伝世
1858	安政5	磁器湯呑	染付	岩村か	飲食	不明／箱館製／	出土・窯跡
1858	安政5.春	磁器唐草文窓付湯呑	染付	萩之島	飲食	岩二／大日本美濃州／	伝世
1858	安政5.6	乳棒	刻書	高田	生産	安右衛門／	出土・窯跡
1861	文久1	無釉亀	刻書	妻木	他	山本氏／	伝世
1861	文久1.4	白磁湯呑	染付	妻木か	飲食	大西屋栄助／	伝世
1861	文久	白釉壺	鉄絵	茄子川	住用	無／	伝世
1862	文久2.5	鉄釉長石流し蓋付壺	刻書	駄知	住用	閑庭斎・丸傳印／	伝世
1862	文久2.4	鉄絵手付水注	刻書	駄知	住用	閑庭斎花盛花押／	伝世
1862	文久2.秋	鉄釉蘭引	刻書	駄知	住用	閑庭斎／閑庭斎用／	伝世
1863	文久3.4	灰釉薬研(車)	刻書	駄知	生産	塚本傳六郎／	伝世
1863	文久3.秋	無釉襷文壺	鉄絵	駄知	住用	閑庭斎花盛花押／	伝世
1865	慶応1.1	灰釉高脚盤	鉄絵	高田	飲食	無／年徳神／	出土・窯跡
1865	慶応1.9	磁器水指	染付	市之倉	茶陶	中嶋加三郎／	伝世
1866	慶応2.夏	磁器基石入れ1対	染付	市之倉	他	加藤良助／加藤良助所持／	伝世
1866	慶応2.秋	磁器七角火入	染付	市之倉	住用	加藤良助／加藤良助什・三十七歳作／	伝世
1866	慶応2.12	磁器水盤	染付	駄知	住用	半之丞／	伝世
1867	慶応3.4	磁器火入	染付	市之倉	住用	加藤良助／	伝世
1867	慶応3.12	鉄釉蘭引	刻書	駄知	住用	塚本閑庭斎／	伝世
1868	慶応4.4	磁器壺	染付	茄子川	住用	「中嶋屋善右衛門」／うらめしや／	伝世
1868	慶応4.4	壺	刻書	駄知	住用	不明／	出土・窯跡

※生産地欄に「美濃」とあるのは、美濃窯製品であっても生産された村が確定できないもの。